

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2023年5・6・7月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第 630 号

2021年夏から1年間、在外研究の機会をいただき、ドイツ・ライプツィヒに滞在しました。その間、ドイツのいくつかのアカデミーの活動にも接することができました。私はその活動のほんの一端を垣間見た程度にすぎませんが、その見聞から報告させていただきます。

ドイツのアカデミーに關わってこられたある方は、アカデミーの役割は、「理性的な討議の場を制度的に保証すること」だと言っています。本誌前号の巻頭言で、山本俊正先生がドイツとフランスの青年交流をとりあげていらつしやいましたが、このような隣国との和解にも、アカデミーが関わってきました。例えば、ドイツにとつてフランスよりも和解が困難であったポーランドとの関係においては、1970年代以降、ドイツ・ポーランド会議にみられるような対話活動が継続され、今日に至っています。このような、息の長い継続的な出会いと話し合いの場を提供することは、組織としてのアカデミーの真骨頂でしょう。日本のアカデミーも、キリスト者も関わる「日韓和解と平和プラットホーム」などと連携していくことができればと思います。しかし、ドイツのアカデ

ミーは現在、困難に直面しています。一つは教会員数の急速な減少です。2021年末、ドイツでは統計史上初めて、カトリックとプロテスタントの二大教会に属する人が半数以下となりました。この傾向は、世代交代とともにさらに加速化することが予測されます。そうすると、教会はこれまでの規模でさまざまな活動を継続することが困難になってきています。アカデミーも、既に縮小や閉鎖を経験し

てきました。しかし、あるアカデミーの所長は、縮んでいく教会が教会自身のことにはあまりかかりきりにならないために、アカデミーの存在意義はかつてなく大きい、と語っていました。すなわち、人も金も足りないからと自分たちの組織を維持するのに手いっぱいになるのではなく、小さくなって他者が目に入らなくなる恐れがあるからこそ、社会の課題とつながっていることが大切だということです。

## アカデミーの課題—ドイツと日本

上智大学外国語学部教授

木村 護郎 クリストフ



そこで問われるのは、アカデミーが話し合いの場を提供することの意義です。第二次世界大戦後、ドイツでアカデミーができた頃は、ドイツ社会はまだ戦前からの権威主義を引きずっていました。そのなかで、アカデミーは、率直に話せる貴重な空間を提供していたと考えられます。しか

し、1968年の学生革命以降、西ドイツ社会は大きく変わり、批判的思考と議論を重視する社会になりました。自由な言論活動ができなかった東ドイツでは教会は、なおもほぼ唯一の自由空間としての意義を持ち、1989年のベルリンの壁の崩壊や体制転換に至る過程で大きな役割を果たしました。しかし、今や誰もが自由に意見を言うことができ、アカデミーの特徴はもはや目立ちません。

このようなドイツでの経験から思うことは、日本ではアカデミーの意義は実はドイツよりも大きいのではないかといいそうです。日本では、キリスト教界はドイツよりはるかに小さく、圧倒的な少数派です。自分たちの世界に縮こまる可能性が大きいからこそ、広くアンテナをはって社会的課題とつながり、社会への奉仕を意識することがよりいっそう大切なのではないのでしょうか。そして、あまりにもお粗末な国会の議論をみてもわかるように、日本には今なお話し合いの文化が根付いていないように思います。なので、日本では、自由な話し合い／対話／討議の場を創り出す意義は少しも失われていません。特に、アカデミーの提供する場の大きな特徴は、講師と参加者の質疑応答だけではなく、参加者同士の話し合いができることだと理解しています。そのような分かち合いから、課題が自分事になり、深い変化が生まれるでしょう。このことをアカデミーの特徴としてもっと重視してアピールしてもよいのではないのでしょうか。

昨年10月7〜8日に開催された「シユベネマン記念集会」での発題を再構成していただきました。

スト教文学に学ぶ」からのスピン・オフ・プログラムとして、対面式での少人数の読書会「キリスト教と文学」(講師・柴崎聰)を開始する。

- 6. 「宗教対話」Ⅳは、これまで引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。
- 7. 「聖書を読む講座」Ⅰは、山口里子氏によるマルコ福音書の新しい読み方を示す講座で、今期でⅥ期目になる。全面 Zoom による開講で、全国各地、さらに海外からも約 70 名の受講者がある。
- 8. 体験プログラムとして、コロナ以前に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。但し、発声を伴うプログラムなので、コロナ下での再開の準備をする。
- 9. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2023 年度も各神学校の賛助を得て、第 13 回プログラムを実施する。リモートでの開催か、対面での開催かについては未定。

運営については対話を中心しつつ進め、オンライン研修・セミナーのより充実した運営ならびに効果的な広報に取り組む。そして、得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活性化させる。

また、各事業における収支バランスをとることを原則とし、活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。

フォーラム事業(関東)			
関東フォーラム 今日の課題	共同研究	「コロナ後の教会への希望」荒瀬牧彦(日本聖書神学校教授)	報告書をキリスト新聞社より 4 月に出版予定
関東フォーラム 宗教対話 Ⅰ	全 7 回	連続講座「日本キリスト教史を読む」Ⅲ(昭和篇 アンコール開講) 講師 戒能信生(千代田教会牧師) 早稲田奉仕団、関西セミナーハウス活動センターと共催) Zoomによる全国向け講座	第1回 5月11日(木) 第2回 6月8日(木) 第3回 7月13日(木) 第4回 8月10日(木) 第5回 9月14日(木) 第6回 10月12日(木) 第7回 11月9日(木)
関東フォーラム 宗教対話 Ⅱ	全 6 回	連続講座「キリスト教文学に学ぶ」Ⅱ 講師・山根道公・山根知子(ノートルダム清心女子大学教授)(Zoomによる全国向け講座)	第1回 5月29日(月) 第2回 6月26日(月) 第3回 7月24日(月) 第4回 9月25日(月) 第5回 10月23日(月) 第6回 11月27日(月)
関東フォーラム 宗教対話 Ⅲ	全 9 回	読書会「キリスト教と文学」 講師・柴崎聰(文芸評論家)(原則として対面式での実施)	第1回 5月16日(火) 第2回 6月20日(火) 第3回 7月18日(火) 第4回 9月19日(火) 第5回 10月17日(火) 第6回 11月21日(火) 第7回 1月16日(火) 第8回 2月20日(火) 第9回 3月19日(火)
関東フォーラム 宗教対話 Ⅳ	全 1 回	柏木義円公開講演会「柏木義円の日記に見るその日常」講師未定(柏木義円研究会との共催)	11月18日(土)
聖書を読む講座Ⅰ	全 10 回	「マルコ福音書をじっくり読む」第 6 期 講師 山口里子(聖書学者)	4月~2024年2月 第 2 火曜(8月休会)
話し方ワークショップ	全 10 回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワークショップ(ステップ・アップ講座、初心者も可) 講師・友野富美子 対面プログラム	今年度中の再開を 模索中
神学生交流プログラム		第 13 回神学生交流プログラム 校長 神田健次(関西学院大学名誉教授)、講師 未定 開催場所は未定	2024 年 3 月に二泊三日で検討中

### Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター2023年度事業計画

2022 年度に試行的使用が始まった関西セミナーハウスが、本格的使用に入ったので、本年度は、その施設の類まれな豊かさを生かした様々な活動を展開する。

秋には、関西セミナーハウスと共催で、洛北の秋を静かに味わう 2 泊 3 日の特別プログラムを開催する。夏には、過去 10 年間継続してきたエネルギーを考える修学院フォーラムを 1 泊 2 日で若者と共に開催する。秋には、聖書に基づき現代の問題を考える修学院フォーラムを 1 泊 2 日で開催する。

その他、女性差別、LGBTQ、子どもの権利、憲法、良心的兵役拒否、エコロジー、晩年の看取りなどの問題を、講師と直に語り合って考える。ただし遠方の方は、オンラインで参加することも可能なようにする。開発教育セミナーでも、人権・平和・環境などの地球的課題を対面の参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。

運営については対話を中心しつつ進め、オンライン研修・セミナーのより充実した運営ならびに効果的な広報に取り組む。そして、得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活性化させる。

また、各事業における収支バランスをとることを原則とし、活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。

フォーラム事業(関西)			
修学院フォーラム 社会	第1回	憲法9条は死んでしまうのか? 講師 高作正博(関西大学法学部教授)	6月17日(土)
	第2回	エネルギーを考える第11回 原発帰帰か自然エネルギーの再生か? 我々はどうな世界を目指すのか? 講師 福岡 揚(神学者) 講師 片岡輝美(交集中) 講師 近藤 恵(二本松営農ソーラー株式会社取締役) 講師 牛山 泉(足利大学名誉教授)	7月30日(日) ~31日(月)
	第3回	聖書をエコロジーの視点で読む エコロジカル聖書解釈への招き 講師 大宮有博(関西学院大学法学部教授)	10月21日(土)
	第4回	戦争と兵役を拒否した人びとー20世紀世界大戦時の英米と日本(仮) 講師 西村裕美(前立教大学教授)	12月2日(土)
修学院フォーラム 福祉	第1回	スピリチュアルケアのこころーホスピスにおける宗教の役割 講師 ティモシー・ベネディクト(関西学院大学社会学部助教)	2024年1月27日(土)
	第2回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交集中 京都 YWCA と共催	2024年1~2月 予定
修学院フォーラム いのち	第1回	研究の主体でもない、対象でもない『女性』~日韓キリスト教関係史から探る~ 講師 神山美奈子(名古屋学院大学商学部准教授)	4月22日(土)
	第2回	聖書に向き合う LGBTQ+(プラス)のキリスト者たちと 講師 ベルナデッタ・ブルーテン(ブランドイス大学名誉教授) 通訳 渡邊さゆり(日本バプテスト同盟牧師)	6月3日(土)
	第3回	現代の課題に対して聖書は何を語るか(仮) 講師 月本昭男(古代オリエント博物館館長)	11月3日(金・祝) ~4日(土)
	第4回	「性」の神学的意味付けについて(仮) 講師 朝香知己(同志社大学嘱託講師)	9月または3月 予定

# 公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

## 2023年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2023年度の実業計画を次の通り定める。

### I 事業計画基本方針

当財団は、ウイズコロナ時代が続いている中で、2023年度においても以下の基本方針を掲げ、コロナ対策に万全を期し、且つ新たな活動や事業方策を検討し安定した財団運営を推進する。

#### 1. 財団事業の展開

- 1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話(はなしあい)を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。
- 2) コロナ禍における財団事業の展開において、①関西セミナーハウスの事業は、コロナの感染状況を踏まえつつ事業展開の可能性を模索し、段階的に新しい運営形態に取り組む。②アカデミー運動における事業活動は、引き続き3密対策を徹底し、研修・セミナーは積極的に集合形式を計画するとともに、リモート形式についても運営方法の充実をはかる。
- 3) 東・西施設の適切な運営管理を行い、法人運営の健全化を進める。

#### 2. 事業の推進

##### 1) 公益目的事業

##### (1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とし、且つ事業費、寄付金収入も含めて、各活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。
- ③ 講師ならびに参加者同士の対話を中心に進めつつ、オンライン会議においてもより充実した運営方法に取り組む。
- ④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発と効果的な広報に取り組む。
- ⑤ 得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。
- ⑥ キリスト教精神に基づくものではあるが、未だに社会の共通認識にと至っていない幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

##### (2) 関西セミナーハウス

アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を検討し実施する。

##### 2) 収益事業

##### (1) 関西セミナーハウス

- ① コロナ感染対策を徹底しつつ、関西セミナーハウス新体制構築の準備期として、安定した運営に取り組む。
- ② 一般利用者、企業等に対して施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

##### (2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収

益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

#### 3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告するとともに、より効果的な広報を検討し取り組む。

具体的には広報先やツールなどについて、効果的に且つ効率的に行う方策を検討し実施する。このことによって本法人の使命や活動をより広く知らせ、理解者、賛同者ならびに事業や活動の参加者、利用者の増加につなげる。

東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページやSNS等によって積極的な情報発信を継続する。

#### 3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

#### 4. ドイツをはじめとする海外のアカデミー運動との連携を模索する。

#### 5. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の仕組みや広報について見直し、拡充に取り組む。

### II 関東活動センター2023年度事業計画

2023年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. Covid-19感染がなお続く中で、今必要とされる課題についての講座や企画に絞って事業展開をする。この間、感染を避けるためリモートでのプログラムを展開してきたが、対面式、あるいはハイブリット式の講座を試みる。
2. 「今日的課題」Ⅰとして、「コロナ後の教会の可能性」について2021年度から継続して来た共同研究の成果を書籍にして、4月にキリスト新聞社から刊行予定であり、有効に活用する。
3. 「宗教対話」Ⅰとして、前年度に引き続き、連続講座「日本キリスト教史を読む 第Ⅲ期(昭和篇)」のアンコール開講を全面リモート(Zoom)で実施する。前回聞き逃した受講者だけでなく、リモートでの開講によって関西セミナーハウス活動センターの会員、さらに全国での受講者を募る。現在全国から約60名の受講者が与えられている。
4. 「宗教対話」Ⅱとして、昨年開講した連続講座「キリスト教と文学」の第Ⅱ期として、山根道公・知子夫妻(淑徳大学教員)を講師として、遠藤周作・宮沢賢治を取り上げる。これは明治以降の日本の近代文学に果たしたキリスト教の影響を、文学作品によって跡付ようという試み。当面、全面Zoomで開講する。
5. また宗教対話Ⅲとして、昨年度の連続講座「キリ

(2 頁より続く)

研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 「貿易ゲーム～教材体験から深い学びへ～」 「あなたに贈りたいチョコレート」 講師：開発教育研究会 共催 (公財)京都市国際交流協会	6月18日(日)
	第2回	地球と食の未来を考える～人も自然も壊さない経済とは?～ 講師 平賀緑(京都橋大学経済学部准教授)	7月8日(土)～9日(日)
	第3回	私の“伝えたい”を探るワークショップ 講師 くるみざわしん(劇作家・精神科医)	9月9日(土)10日(日)
	第4回	ウトロで考える人権・平和～これまでの活動に学び、多文化共生社会を創造しよう～ <フィールドワーク(宇治市ウトロ地区)あり> 講師 金秀煥(ウトロ平和祈念館副館長)	10月7日(土)～8日(日)
	第5回	主体的に行動する市民を育て～「南」の島の出会いの現場から～ 講師 藤野達也(Evangelical Lutheran Church PNG, Lutheran Development Service)	11月4日(土)～5日(日)
	第6回	マイクロアグレッションってなあに?～日常の無関心に埋め込まれた差別と向き合う～ 講師 北川知子((特活)とんだばやし国際交流協会)	12月2日(土)～3日(日)
もみじまつり	関西セミナーハウスと共催		11月23日(木・祝)～25日(土)
	洛北の秋を静かに味わう:ウクライナの平和を願って(仮) 講師・演奏:渡辺総一(造形作家)、沢知恵(シンガーソングライター)、根本恵(教師)、橋本ルツ子(ピアニスト)		

ハウス再興のための資金を確保することができ、2023年度クリーンスタートに向け懸念であった施設の整備に充てることができた。

2023年度の関西セミナーハウスの事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) コロナによる臨時休館解除2年目となる本年度は従来の運営方法にとらわれず、利用者の利便性を高め、施設の魅力を再発信するなど今後の社会変化に対応した事業展開を行う。
- 2) 宿泊者および会議室利用の増加を図ることにより、収益事業として財団経営の安定化につなげる。
- 3) 関西セミナーハウス施設維持管理を目的とした寄附金の募集を再開する。
- 4) 関西セミナーハウスの運営に関する諸課題については経営委員会で検討し、運営する。

2. 予算編成上の留意点

- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
- 2) 職員の人件費について、本部と関西セミナーハウスの従事割合により配分する。従事割合は本部事務局で検討する。

V 本部2023年度事業計画

1. 運営体制

事務局態勢を強化し、運営の強化を図る。

2. 寄附金

インターネットによる募金方法の導入、寄付金を計画的に実施する。

3. 広報活動

機関紙「はなしあい」の新たな形態による発刊、広報媒体、広報対象先の検討

4. ドイツをはじめとする海外のアカデミー運動との連携を図るためのタスクチームで検討する。

IV 関西セミナーハウス2023年度事業計画

はじめに

2022年度は、NCA 募金により関西セミナー

2023年度 収支予算書 (損益計算方式)

2023年4月1日～2024年3月31日まで

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[ 240 ]	[ 240 ]	[ 0 ]	
特定資産運用益	[ 0 ]	[ 160 ]	[ △ 160 ]	
受取事業費	[ 715,000 ]	[ 800,000 ]	[ △ 85,000 ]	
事業収益	[ 86,894,838 ]	[ 45,797,400 ]	[ 41,097,438 ]	
受取寄付金	[ 2,220,000 ]	[ 1,700,000 ]	[ 520,000 ]	
雑収	[ 2,200 ]	[ 7,240 ]	[ △ 5,040 ]	
経常収益計	89,832,278	48,305,040	41,527,238	
(2) 経常費用				
事業費	[ 91,798,136 ]	[ 83,081,505 ]	[ 8,716,631 ]	
管理費	[ 4,571,620 ]	[ 3,487,000 ]	[ 1,084,620 ]	
経常費用計	96,369,756	86,568,505	9,801,251	
当期経常増減額	△ 6,537,478	3,158,510	31,725,987	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 6,537,478	3,158,510	△ 9,695,988	

関東活動センター

●第12回「神学生交流プログラム」報告

校長 関西学院大学名誉教授 神田 健次さん  
 講師 日本聖書神学校教授、カンパールン  
 ド長老キリスト教会田園教会牧師 荒瀬 牧彦さん  
 2023年3月15日(水)〜16日(木)  
 Zoomによるオンライン開催

第12回神学生交流プログラ  
 ムが、3月15日(水)〜16  
 日(木)の日程で、昨年同様  
 Zoomで開催された。

校長は、神田健次牧師が務  
 め、講師は荒瀬牧彦(日本聖  
 書神学校教授、カンパールン  
 ド長老キリスト教会田園教会  
 牧師)をお迎えした。主題  
 は、「コロナ後の教会の可能  
 性―改めて考える礼拝の可能  
 性」と、先日発行された『コ  
 ロナ後の教会の可能性―危機  
 下で問い直す教会・礼拝・宣  
 教―』を視野に入れた講演で  
 あった。

昨年の反省を生かして、参  
 加者同士が自由に交流できる  
 時間を増やし、技術面でのス  
 タッフを増強するなど、準備  
 を進めていった。

今回は、現役の神学生や神  
 学校を卒業した直後の方々が  
 集まり、計13名の参加者が与

えられた。特に今回は、教流  
 的に、より幅の広い会にした  
 いという思いもあり、これま  
 で積極的に参加を募ってこな  
 かった神学校に声をかけた。

結果、聖契神学校(2名)、  
 日本聖書神学校(2名)、関  
 西学院大学(1名)、農村伝  
 道神学校(1名)、西南学院  
 大学(2名)、東京基督教大  
 学(1名)、同志社大学(2  
 名)、日本ナザレン神学校(2  
 名)が参加し、特に福音派の  
 方々との豊かな交流がなされ  
 たことは感謝であった。

1日目は、神田校長による  
 開会礼拝に始まり、オリエン  
 テーションでは、参加者同士  
 が話し合っ、「晩祷」や「朝  
 の祈り」、「講演の司会」など  
 が決められた。この交流プロ  
 グラムでは、参加者が協力し  
 て共に作り上げていくことを  
 大切にしており、今回もス

ムーズに役割分担がなされ、  
 驚かされた。

その後、参加者の自己紹介  
 と神学校の紹介がなされた。  
 教派も神学的な考え方、伝統  
 も異なる神学校で学んだ者同  
 士が、自己紹介や自分の神学  
 校を説明するのを通し、  
 深い交わりの時となった。

自己紹介後の「講演I」は、  
 「私の歩んできた道」と題し  
 て、講師の荒瀬牧彦先生の人  
 生が語られた。話は小学生の  
 時の「なぜ生きているのか?」  
 という疑問から始まり、上智  
 大学在学中に出会った吉山登  
 神父の言葉や原崎百子氏の著  
 書と出会い、伝道者への道を  
 志すようになったと話され  
 た。その後、神学校を卒業後  
 に取り組んだ開拓伝道の挫折  
 やメンフィス神学校(アメリ  
 カ・テネシー州)において「礼  
 拝をデザインする(Designing  
 Worship)」という礼拝学と  
 の出会い、2度目の開拓伝道、  
 沖繩から神学する視点などが  
 なされた。

夕食休憩の後は、「交わり  
 の時」として、Zoomのプレ  
 イクアウトルーム機能を用い  
 て、小人数でのグループに分  
 かれ、自己紹介や交わりの時

をもった。牧会に出る直前の  
 さまざまな思いを話し合うこ  
 とのできた良い機会となった。  
 また1日目の夜は、自由参加  
 として「交流の時」をもった。  
 この時は、飲み物などを各自  
 がPCの前に持ち寄り、ゆっ  
 くりと交流する時となった。

2日目は、「朝の祈り」に  
 始まり、昨日の「交わりの時  
 I、II」の報告が行われ、「講  
 演II」が始まった。講演の前  
 半は、「礼拝のリタジーと教  
 会の神学」と題して、礼拝  
 の基本構造やリタジーカル・  
 フォーメーションについてな  
 ど、より具体的な礼拝学の講  
 義を受けることができた。後  
 半は、「コロナ後の礼拝の可  
 能性」と題して、日本クリス  
 チャン・アカデミーで行った  
 共同研究を中心に、礼拝の同  
 時性や共同性についてや、オ  
 ンライン聖餐式の可能性、イ  
 エスは非接触の人々に触れる  
 ことを通してそのあり方を示  
 されたということを通して、  
 これからの教会の可能性につ  
 いて話された。また、スタッ  
 フであり共同研究の研究員で  
 もあった浦上充と吉岡恵生も  
 参加して議論を展開した。

昼食休憩後の「交わりの時

III」は、テーマに分かれてじっ  
 くりと話し合う時となり、「ま  
 とめの時」では、参加者から  
 感想や意見が述べられた。そ  
 して最後は、神田校長による  
 閉会礼拝が捧げられ、2日間  
 のプログラムが終了した。  
 今年もオンラインでの開催  
 であったために、さまざま  
 限界があったが、オンライン  
 だからこそ可能であったプロ  
 グラムもあり、今後はさまざ  
 まな技術を組み入れながら  
 も、対面の交わりも大切にし  
 たいと願っている。詳細は、  
 完成する報告書をもって確認  
 していただきたい。



関西セミナーハウス活動センター

●2022年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」第10回  
「原発回帰に未来はあるのか」

「原子力という災厄の根っこを考える」

講師 高木仁三郎市民科学基金理 細川 弘明さん  
事、京都精華大学名誉教授

「エネルギー危機に対するドイツおよびヨーロッパの選択：その背景と帰結」

講師 ドイツルートヴィヒスハーフェン 経済大学教授、上智大学客員教授 フランク・レーヴェカンプさん

「キリスト教界は、エネルギー問題とどう向き合うのか：日本とドイツを中心に」

講師 上智大学外国語学部教授 木村護郎クリストフさん

2023年1月8日(日)〜9日(月) 祝  
関西セミナーハウスとオンライン



原子力発電を考えるフォーラムは、2012年から毎年1回開催し、今回で10回目である。今回は、閉じていた関西セミナーハウスが再開したので、3年振りに是非対面集会を開きたいと準備していたが、コロナ感染症の感染者急増のため、やむを得ずオン



ライン集会に切り替えた。セミナーハウスの会場に5名が集まり、オンラインに23名が繋がった。その中11名が学生であった。最初に細川さんが、豊富な資料を用いて、原発に依存する社会が被る災厄が、いかに根が深く、しかも広範囲に及



ぶかを示した。原発は軍事技術から派生したものである故に、膨大な費用を要し、多量の処理不能なごみを排出し、製造から廃棄まで放射能被爆を引き起こし、無責任と不可視の構造を生み、民主主義と相容れない、と述べた。



次いでレーヴェカンプさんが、ドイツは、脱原発と脱石炭を同時に行おうとして大きな困難に直面している。ウクライナ戦争が、その問題点を浮き彫りにした。脱原発と脱石炭は、再生可能エネルギーの増加と、エネルギー節約の具体的目標を立て、エネルギー転換への長期的見通しの下で、現実的に行われるべきである、と述べた。

最後に木村護郎クリストフさんは、エネルギー選択のような社会的課題の方向を決めるのは、技術ではなく、価値観である。生態系の破壊、貧富の差の増大、世界戦争の危

機などの地球規模の災禍を生み出しているのは、資本力と国家戦力の肥大化であるが、この流れにキリスト教は自由、平等、平和、公正などをもたらす第3の力として影響を与え得る、と語った。

集会は、参加者に多大の忍耐を強いるものであったが、内容の充実した会を可能にした。オンライン集会は、対面集会に比し、遠隔の人の参加を容易に、学生の討論参加を容易にしたが、年配の人の討論参加を難しくした。

●2022年度 修学院フォーラム「福祉」第3回  
「生きづらさの声を聴く  
コロナ禍の子ども・若者の権利侵害」

講師 佛教大学社会福祉学部准教授 長瀬 正子さん

会場 京都YWCAとオンライン  
2023年1月28日(土)

子ども・若者の声を聴く作業は、子どもの権利(人権)と一緒に学ぶことから始まる。

選択していくことを伴走支援することである。大人自身も、健康な心身の状態であること、気持ちを示すことが大切で、信する姿を示すことが大切である。コロナ禍での沈黙にあきらめないで、つながり発信することの希望をまず大人が確信することも望まれる。

大人の役割は、子どもが自分の感情に気づき、大切にしたい、表明していくこと、考え

セージを語ってもらい、エールをもらった学びの時間となった。とりわけ最後に、「聞いてもらったケアされた関わりの経験は、それぞれの子どもも人生の中で必ず意味ある時間として残る」との言葉に励まされた。

2022年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名 2022年4月1日～2023年3月31日(順不同・敬称略)
ご支援に感謝申し上げます。

Table listing donors and their contributions, organized into columns. Includes names, addresses, and donation amounts. Key entries include: 財団本部, 終身会員, 神保 清一, 神保 正男, 神保 信子, 中井 博雅, 小久保 正, 野田 純一, 島田 恒, 横野 朝彦, 日本クリスチャン・アカデミー, 再興のための募金, 木村護郎クリストフ, 徳丸 延子, 中村 信博, 野平 俊之, 武山 泰子, 橋 俊子, 奥田 豊, 竹中 百合子, 林 律, 中原 千香子, 匿名 久保 二郎, 匿名 延原 正海, 匿名 坂坂 二規, 八田 尚嘉, 中井 博雅, 岡本 泰子, 林 宗一郎, 神保 正男, 織田 雪江, 大澤 愛子, 手銭 秀夫, 諫早 道子, 匿名 陽子, 山崎 真鳥, 竹下 亘, 武藤 高司, 多木 秀雄, 荒井 功, 船戸 正久, 神崎 清一, 匿名 晴信, 山田 純, 小笠原 喜博, 平林 ユズル, 片桐 ユズル, 牛尾 宣夫, 株式会社新経営サービス, 奈良 睦子, 船坂 孝江, 匿名 中村泰洋園, 森口 克洋, 山根 厚信, 石川 公子, ワケンホールディングス株式会社, 脇坂 照世, 佐々木 結児, 辻 紀子, 網野 俊賢, 黒田 睦子, 浅田 涼子, 柴田 賢司, 株式会社柴橋商会京都支店, 株式会社アイイーエス, 神田 健次, ヤマモト オサム, 横野 朝彦, 日本基督教団伊丹教会, 近見 富美子, 松本 嘉一, 匿名 小久保 正, 株式会社ビーテック, 奈倉 道隆, 山中 信幸, 和田 喜彦, 岡崎 典子, 木下 壽子, 長谷川 義紘, 西川 淑子, 匿名 門間 幸枝, 横濱雙葉中学高等学校, 日本キリスト教団経堂緑岡教会, 日本基督教団霊南坂教会, クリスマス寄付金, 飯田 庸子, 河原田 美哉子, 恵泉女学園中高・宗教部, 小林 誠治, 藤 知佳, 中井 博雅, 松下 起子, 門間 幸枝, 日本基督教団市川三本松教会, 日本基督教団浦安教会, 日本基督教団鹿兒島加治屋町教会, 日本基督教団原宿教会, 日本基督教団ひばりが丘教会, 日本基督教団洛南教会, 日本キリスト教団早稲田教会, 神学生交流プログラム寄付金, 市川 邦雄, 江口 忍, 小原 武夫, 戒能 信生, 加藤 真規子, 川北 かおり, 関西学院大学神学部後援会, 神田 健次, 久保田 愛策, 古賀 博, 小久保 潤, 齊藤 正, 島田 治夫, 島田 恒, 日本キリスト教団須賀川教会, 学校法人西南学院キリスト教活動支援課, 関田 寛雄, 竹中 百合子, 同志社大学神学部, 東矢 高明, 外谷 悦夫, 中井 博雅, 勝 愛美, 中村 信博, 西川 優子, 日本聖書神学校, 根津 建, 農村伝道神学校, 秋原 好子, 松井 直樹, 松下 起子, 門間 幸枝, 吉崎 聆子, 吉田 博, 関西セミナーハウス 寄付金, 牛尾 宣夫, 神崎 清一, 神田 健次, 柴田 賢司, 武藤 高司, 関西セミナーハウス活動センター 賛助会費, 石川 憲彦, 浅田 涼子, 小原 武夫, 戒能 信生, 匿名 岩坂 稔, 宇野 梅山, 川畑 泰礼子, 小林 義彦, 齊藤 潤, 桑田 治夫, 島田 泉, 高柳 允子, 日本基督教団千代田教会, 匿名 中井 博雅, 中村 信博, 萩原 好子, 許 昌範, 増田 博, 増田 茂長, 松本 誠, 君村 昌, 黒田 睦子, 古賀 恵, 近藤 洋子, 齊藤 桜井, 佐藤 友紀, 繁永 幸久, 白方 誠彌, 新宗連大事務所 公文 孝枝, 陶村 世佳子, 菅 恒敏, 關岡 一成, 高寺 幸子, 多木 秀雄, 竹中 百合子, 橋 俊子, 田辺 信子, 都木 かおり, 徳田 信, 徳丸 延子, 匿名 島井 清司・操, 中上 和子, 長塩 滋子, 中島 健二, 中村 信博, 奈倉 道隆, 鳴海 信子, 西岡 裕芳, 西川 淑子, 林 律, 春名 康範, 比嘉 美智子, 樋口 よう子, 平林 喜博, 伏木 信次, 藤田 恭子, Christian M. Hermansen, 間瀬 啓允, 今川 蓉子, 松田 光代, 松本 嘉一, 真鍋 裕子, 丸山 まり子, 水戸 潔, 南 和子, 森 正幸, 森口 克洋, 山岡 義生, 山本 貴之, 山本 知恵, 山本 俊正, 横田 穂美, 吉田 力, 李 善恵, 医療法人わたなべクリニック 寄付金, 荒井 加代子, 安 昌美, 伊藤 正子, 匿名 栄次, 大島 偕美, 織田 雪江, 喜多村 やよい, 木下 壽子, 公益財団法人京都YWCA 小久保 正, 湖月 美和, 繁永 幸久, 島田 恒, 新庄 尚司, 杉本 竹下 亘・八千代, 武山 泰子, 多田出 佳代子, 月本 昭男, 堤 龍春, 島井 清司, 中島 健二, 中村 信博, 鳴海 信子, 西川 淑子, 岸 宏邦, 延原 正海, 長谷川 義紘, 早川 良彌, 林 律, 姫野 真知夫, 喜博 敦子, 藤田 恭子, Christian M. Hermansen, 松本 嘉一, 真鍋 融, 水戸 潔, 南 和子, 村上 みか, 家形 日出, 柳井 一朗, 山岡 義生, 山添 みどり, 山本 知恵, 山本 俊正, 横野 朝彦, 匿名 和田野 勢津子, 日本基督教団京都葵教会, 日本基督教団京都教会, 日本基督教団草津教会, 日本基督教団西が丘教会, 日本基督教団西陣教会, 日本基督教団室町教会, 日本基督教団洛西教会, 日本基督教団和歌山新生伝道所 プログラム指定寄付, 匿名 クリスマス寄付金, 大門 義和, 荒井 加代子, 井田 光昭, 伊藤 威知郎, 伊藤 正子, 岩坂 泰彦, 二規・泰子, 匿名 浦 晴子, 川北 かおり, 北風 照子, 小久保 正, 小崎 真, 齊藤 洋子, 坂口 みどり, 柴橋 美穂, 島田 恒, シュベネマン偕美, 菅原 幸子, 多木 秀雄, 竹中 百合子, 武山 泰子, 多田出 加代子, 田中 義信, 堤 龍春, 島井 清司, 中西 綾子, 中村 信博, 根岸 宏邦, 延原 正海, 林 律, 日野 多栄子, 藤田 敦子, 藤田 恭子, 真鍋 裕子, 丸山 まり子, 宮本 桂子, 山本 俊正, 吉田 力, 脇坂 照世, 在日大韓基督教団京都教会, 日本キリスト教団伊丹教会, 日本キリスト教団伊丹教会, 日本基督教団世光教会, 日本基督教団西が丘教会, 日本基督教団平安教会

プログラム案内

◆関東活動センター

(いずれも共催：早稲田奉仕園)

■2023年度 聖書を読む講座I

「マルコ福音書をジックリと読む」第6期

講師：山口 里子さん(聖書学者)
日時：4月11日より第2火曜 18:30~20:00

参加費：全10回8,000円(学生4,000円)
方法：Zoomによるオンライン講座

■2023年度 宗教対話I

〈アンコール開講〉連続講座「日本キリスト教史を読む」Ⅲ昭和篇

講師：戒能信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

日時：5月11日より第2木曜 14:00~16:00

参加費：全7回6,000円(学生3,000円)
方法：Zoomによるオンライン講座

■2023年度 宗教対話II

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」II

講師：山根道公さん・山根知子さん(ノートルダム清心女子大学教授)

日時：①5月29日②6月26日③7月24日各月曜14:30~16:00

参加費：全6回8,000円(学生4,000円)
方法：Zoomによるオンライン講座

■2023年度 宗教対話III

読書会「キリスト教と文学」

講師：柴崎總さん(文芸評論家)
日時：5月16日より第3火曜 14:00~15:30

参加費：各回 1,000円

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

会場：関東活動センター会議室(キリスト教会館1階16号)

◆関西セミナーハウス活動センター

■2023年度修学院フォーラム「いのち」

第2回「聖書に向き合うLGBTQ+(プラス)のキリスト者たちと」

講師：ベルナデッテ・J・ブルーテンさん(ブランドイス大学名誉教授)

日時：6月3日(土)13:30~15:50
参加費：1,500円 学生 500円

■2023年度修学院フォーラム「社会」

第1回「憲法9条は死んでしまうのか」

講師：高作 正博さん(関西大学法学部教授)

日時：6月17日(土)13:30~15:50
参加費：1,500円 学生 500円

方法：会場関西セミナーハウスとZoom併用

第2回「エネルギーを考える第11回」

原発帰帰か再生可能エネルギー活用か~私たちはどんな世界を目指すのか?

講師：福嶋 揚さん(神学者)、片岡輝美さん(会津放射能情報センター代表)、近藤 恵さん(二本松宮農ソーラー株式会社取締役)、牛山 泉さん(足利大学名誉教授)

日時：7月30日(日)16:00~31日(月)13:30~16:00

参加費：15,000円 学生 5,000円(宿泊税別)

会場：関西セミナーハウス

■2023年度開発教育セミナー

第1回「開発教育入門セミナー」(共催：京都市国際交流協会)

講師：開発教育研究会

日時：6月18日(日)10:00~16:00
参加費：1,000円

会場：京都市国際交流会館

第2回「地球と食の未来を考える~人も自然も壊さない経済とは?~」

講師：平賀 緑さん(京都橘大学経済学部)

日時：7月8日(土) 16:00~9日(日) 12:00

参加費：11,000円(宿泊税別)

会場：関西セミナーハウス

賛助会費・寄付金報告

2023年1月1日~3月31日(順不同・敬称略)

◆関東活動センター

賛助会費

友野 富美子
松浦 茂長
原 牧人
上垣 勝
大橋 祐治
門間 幸枝
市川 邦雄

寄付

日本基督教団千代田教会
日本基督教団雲南坂教会
日本キリスト教団経堂緑岡教会
戒能 信生
匿名
松浦 茂長
横浜雙葉中学高等学校
増田 博
中井 博雅
門間 幸枝
小林 義彦
松本 誠
匿名

神学生プログラム寄付

日本キリスト教団須賀川教会
加藤 真規子
日本聖書神学校
古賀 博
同志社大学神学部

農村伝道神学校

島田 治夫

関西学院大学神学部後援会

中村 信博

齊藤 潤

中井 博雅

神田 健次

門間 幸枝

松下 起子

仲程 愛美

小原 武夫

市川 邦雄

西川 優子

吉崎 聡子

クリスマス寄付

市川三本松教会
藤 知佳
日本基督教団浦安教会
日本基督教団原宿教会
日本基督教団ひばりが丘教会
日本キリスト教団早稲田教会
門間 幸枝
日本基督教団洛南教会

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

西岡 裕芳
新宗連大阪事務所 公文 孝枝
水戸 潔
繁永 幸久
山本 知恵
近藤 恵

木原 諄二

多木 秀雄

今川 泰彦・喜子

寄付

柳井 一朗
竹下 亘・八千代
南 和子
水戸 潔
繁永 幸久
山本 知恵
織田 雪江
柳井 一朗

日本基督教団室町教会

日本基督教団京都教会

日本基督教団西陣教会

公益財団法人京都YWCA

日本基督教団草津教会

日本基督教団洛西教会

クリスマス寄付

シュベネマン偕美
中西 綾子

日本基督教団西が丘教会

在日本韓基督教京都教会

日本基督教団世光教会

匿名

日本キリスト教団伊丹教会

伊藤 威知郎

日本基督教団平安教会

以上感謝をもってご報告申し上げます。